

- 国土交通省（当時：厚生労働省）では、**施設の更新需要予測や、それを織り込んだ長期的な収支の試算を適切に実践した資産管理**ができるよう、平成21年に水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)に関する手引きを公表。
- アセットマネジメントにおけるタイプ4 D※の明確化に関する水道事業者からの声や、平成30年の水道法の一部改正や各種マニュアルなどの公表等を受けて、**アセットマネジメントの精度向上が確実に図れるよう、手引きの改訂**を行った。

改訂のポイント

※再構築や規模の適正化を考慮した更新需要の算定および更新需要以外の変動要因を考慮した財政収支の見通し

- ①チェックリストの作成（4 D達成の条件について明確化）**
 - マクロマネジメントの水準を整理し、タイプ4 Dと水道事業者が容易に判断できるチェックリストを手引きに盛り込む。
- ②事例集にタイプ4 Dを追加**
 - 分散型システムの導入を含めた施設の再配置や規模の適正化や、収支の見通しに係る水需要予測に基づいた給水収益の予測、将来の物価高騰等の予測などを盛り込んだ事例集を新たに手引きに掲載。
- ③手引き策定以降の水道行政の変化や社会情勢の変化を追加**
 - 平成30年の水道法一部改正など本手引き公表後の内容を反映。
 - 上下水道政策の基本的なあり方検討会での提言を受けて、経営戦略策定・改訂マニュアルに準じ、更新投資を先送りすることのないよう、必要となる経営改革（料金改定、広域化等）を実行に移せるような内容を手引きに盛り込む。
 - 近年の災害・事故を教訓とし、更新需要算定にあたって考慮すべき観点を盛り込む。
 - 施設配置の適正化の新たな手法として、「分散型システムの導入」や「上流からの取水」を追加し、施設更新を検討するうえで新たな選択肢となる水供給システムを提示。

チェックリスト		
項目	手引き記載箇所	チェック
検討の前提		
データの整備		
固定資産台帳・管路台帳等の、更新需要を算定するための基礎データが整備されている	第Ⅱ編 1-1、1-2	○
上記台帳等が更新工事ごとに整理されている。取得年度・取得価額が資産単位に整理されている	第Ⅱ編 1-1、1-2	○
将来人口の予測等による水需要が整理されている	第Ⅱ編 3-2(6)	○
検討期間		
検討期間が30年以上の長期の計画となっている	第Ⅰ編 3-2	○
更新需要の見通し		
資産ごとに重要度・優先度が整理されている	第Ⅱ編 3-2(4)	○
水道システム全体において、施設の規模及び配置の適正化が考慮されている	第Ⅱ編 3-2(6)	○
施設規模の適正化（施設のダウンサイジング）	第Ⅱ編 3-2(6)	○
施設配置の適正化（施設の統廃合、分散型システム等）	第Ⅱ編 3-2(6)	○
財政収支の見通し		
更新需要に対して資金残高・企業債残高の将来推移を確認している	第Ⅱ編 3-3(4)	○
物価等上昇の検討	第Ⅱ編 3-3(6)	○
将来の物価等の上昇を見込んでいる	第Ⅱ編 3-3(6)	○
水需要予測結果の反映	第Ⅱ編 3-3(6)	○
水需要予測の結果を料金収入の将来値に反映している	第Ⅱ編 3-3(6)	○
妥当性の確認		
更新需要の見通しの妥当性	第Ⅱ編 3-4	○
資産の健全性を保つことができる更新需要となっているか	第Ⅱ編 3-4	○
財政収支見通しの妥当性	第Ⅱ編 3-4	○
財政目標（経常収支の黒字、一定の資金残高の確保）を達成できる計画となっているか	第Ⅱ編 3-4	○

